

海と街とのやさしい出会い ～やすらぎの空間を求めて～“かんたん”みなとまちづくり

大分県 大分市
特定非営利活動法人 大分ウォーターフロント研究会
／大分県

1 社会資本の概要

大分港は、九州の東部、大分県の中央に位置し、古くは16世紀中頃、ポルトガルや明との交易が盛んに行われていました。明治末期からは、近代港湾としての整備が進み、臨海工業地帯が形成されました。今回の舞台である大分港西大分地区は、大分港発祥の地であり、神戸とを結ぶフェリー基地として



癒やしのスポットとして再生した「大分港西大分地区」

利用されています。

また、フェリーターミナルの地区内移転などをきっかけに、別府湾を眺めるなど海を感じることができ特性を活かしたウォーターフロント開発計画が進められ、官民一体となったみなとまちづくりが展開されています。



平成4年から「別府湾岸官民交流会議」を開催

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成6年以前の大分港西大分地区は、不法投棄やポイ捨てのゴミなどによって地域住民が寄り付きにくい場所になっていました。しかし、県のウォーターフロント開発計画をきっかけとして、この港を、地域住民が愛着を持ち、憩い、賑わう空間にしようと当会を設立し、みなと整備やその活用方法への提言・研究、また、イベントの企画・運営等の活動を行っています。その提言・研究は、現代美術による

パブリックアートの設置や、ウッドデッキと芝生の公園整備、更には、取り壊し計画のあった古い建物の再利用など多岐にわたります。

また、“みなと”、“食”、“植栽”などをテーマとした手づくりイベントを開催するとともに、定期的な清掃や草刈り、植栽づくりなど、この場所を、多くの方々が集う魅力的なエリアにするための様々な取り組みを進めています。



平成26年設置 旧フェリーターミナル施設を利用したパブリックアート「マッテルモン」



イベント時の別府湾クルーズ

3 活動の成果や波及効果等

継続的に開催している各種イベントの年間総来場者数が3万人を超え、このエリアの認知度が年々高まるとともに、以前は周辺に4店舗しかなかった商業施設等が、今では29店舗に増加するなど、その効果は周辺地域にも広がっています。

また、当会が開催したイベントを契機に、地域住民が自主的にヨガやノルディックウォーキングの教室を始めたり、定期的に植栽の手入れを行うグループができたり等、地域コミュニティの活性化にも繋がっています。



古くなった倉庫を商業施設等に再利用



地域住民に親しまれているノルディックウォーキング

4 前回受賞時からの活動の発展内容

平成23年度からは、近隣企業19社と連携して「お花の里親制度」を開始し、街灯に花を飾るなど更なる美化活動に取り組んでいます。

また、地元の高校生や大学生、外国人留学生等と連携して「高校生レストラン」や「ワールドレストラン」を実施し、年齢や国籍を超えた交流の輪を広げています。

所在地

大分県 大分市 生石5丁目

活動主体及び連絡先

NPO 法人 大分ウォーターフロント研究会
(097-538-9691)
※功労者：早瀬 康信

対象となる社会資本

港湾環境整備施設（大分港西大分地区）
※管理者：大分県



喜びの声



受賞者

NPO 法人 大分ウォーターフロント研究会
会長 菊口 邦弘

コメント

私たちは、「かんたん港園」来場者の「ここステキですね」の一言に感動し、地元実行委員・ボランティアの皆さんと共に達成感をおぼえ、素直に喜べるまちづくり活動が今回の受賞に繋がりました。多くの関係者の皆さまに感謝しています。

活動内容

- ・国内外のウォーターフロントを視察、研究し、大分港西大分地区を中心に別府湾岸の「みなとまちづくり」を考え大分県に提言
- ・毎年別府湾岸に位置する4市1町で「別府湾岸官民交流会議」を開催し別府湾岸の振興目標を立て実現にむけて努力

活動の経緯

平成2年 団体設立
平成3～8年 様々なウォーターフロント提言
平成16～18年 倉庫再利用提言・社会実験
平成19年 みなとオアシス認定
平成23年 倉庫再利用と港園整備の完成
平成29年 大分さかい100選を受賞